

エアバイブレータの配管例

バイブレータのエア配管は次項以後の図を参考にしてください。

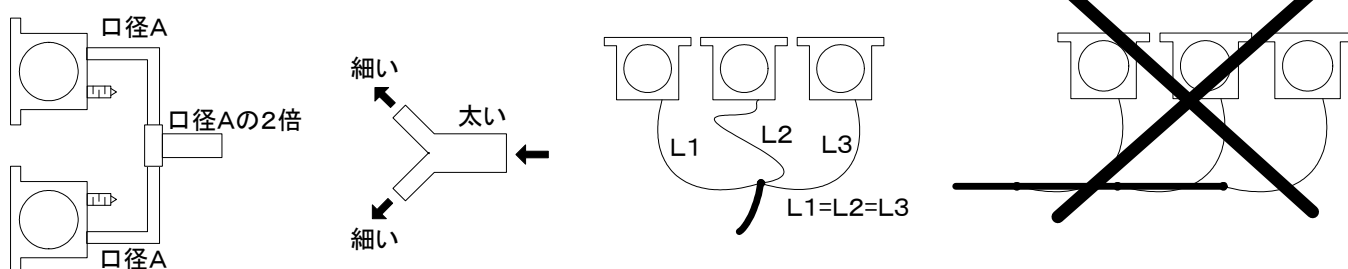
オイルフリー仕様のバイブレータにはルブリケータは不要です。また、ピストン式の場合は必ず3方弁を使用してください。（停止後再スタート時、バルブとバイブレーター間に残圧があるとスムーズにスタートしないことがあります）

操作バルブは電磁弁を推奨しますが、ボールバルブなどの手動弁もお使いいただけます。ただし、手動弁を使う場合は瞬時にフル振動力が得られるよう、コックは一気に開いてください（ゆっくり開くとバイブレータが正常に始動しないことがあります）

操作バルブとバイブレータとの配管長さは出来るだけ短いほうがバイブレータの振動力が最大に取り出せます。

（配管長さは1メートル以内にしてください）

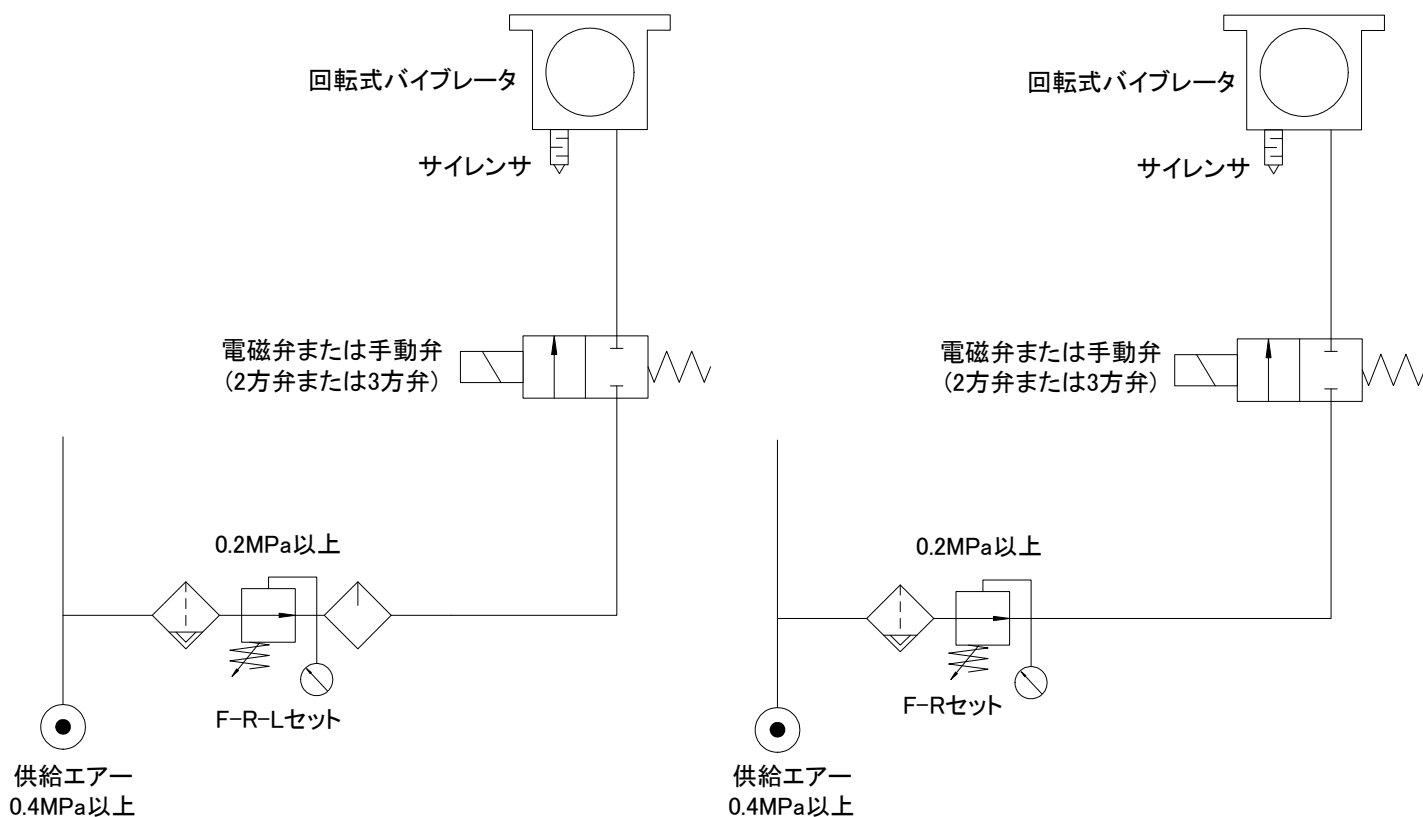
2台同調運転する場合は分岐後の配管長さは同長とし、分岐前の配管太さは分岐後の管の2倍以上の口径としてください。



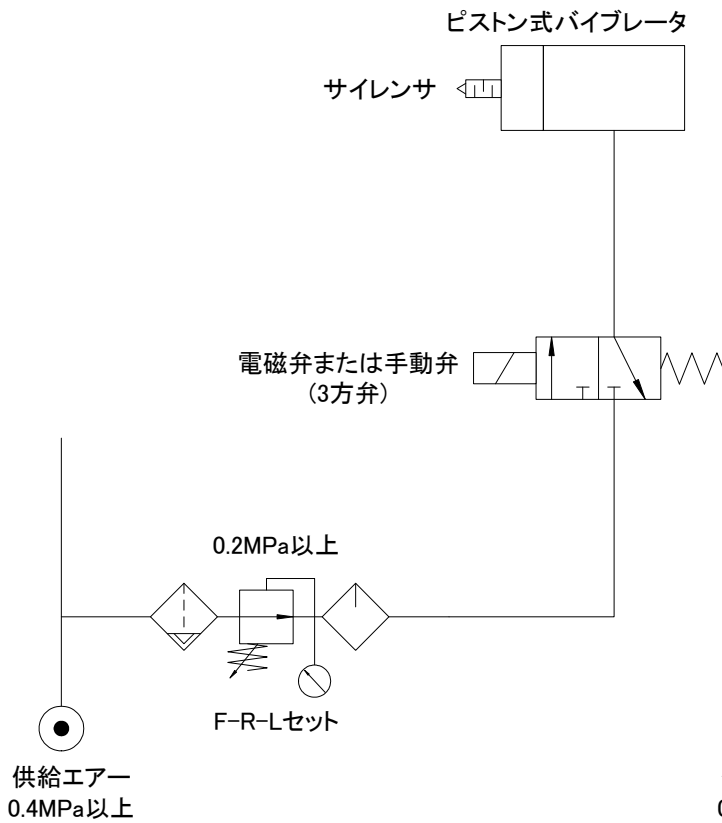
回転タイプバイブレータの配管例

(1) 潤滑オイルを使用する場合

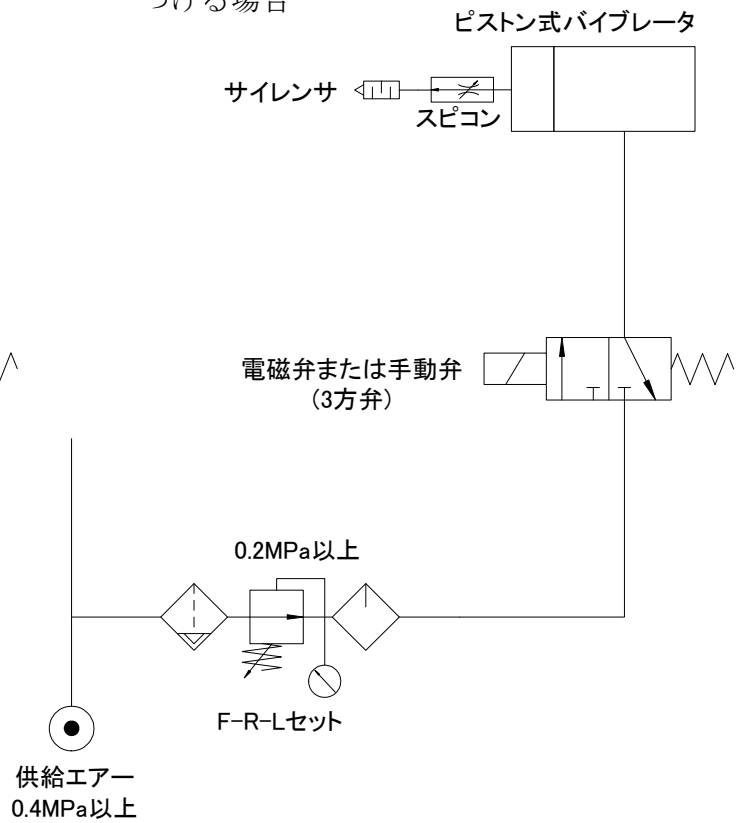
(2) オイルフリーの場合



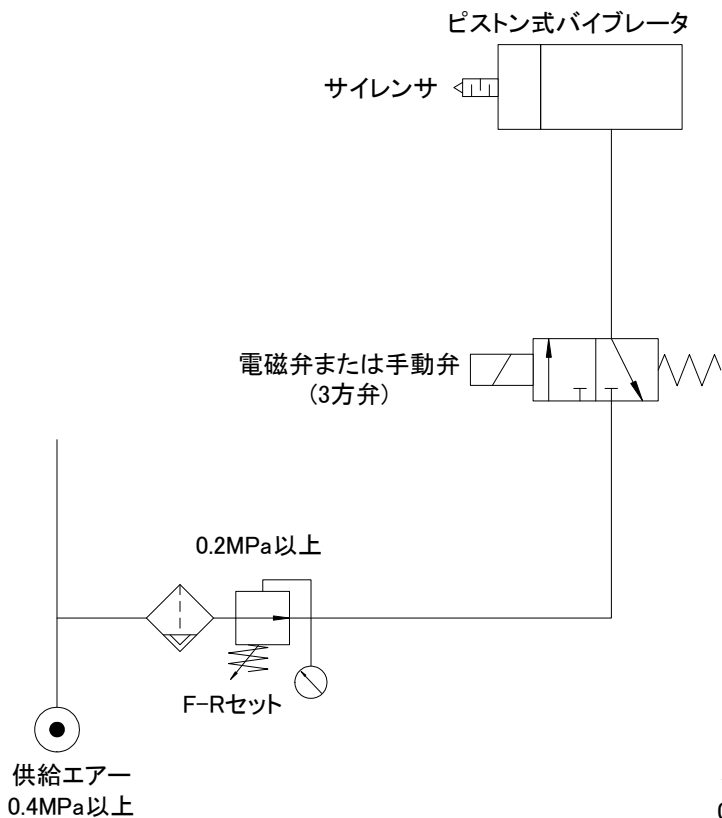
(1) 潤滑オイルを使用する場合



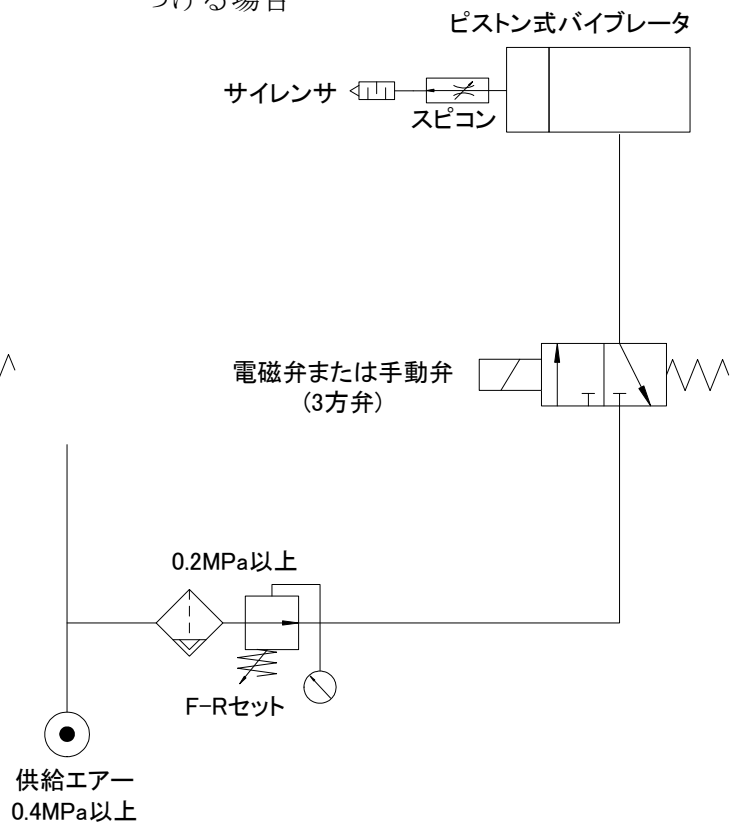
(2) 潤滑オイルを使用し、調整用スピコンをつける場合



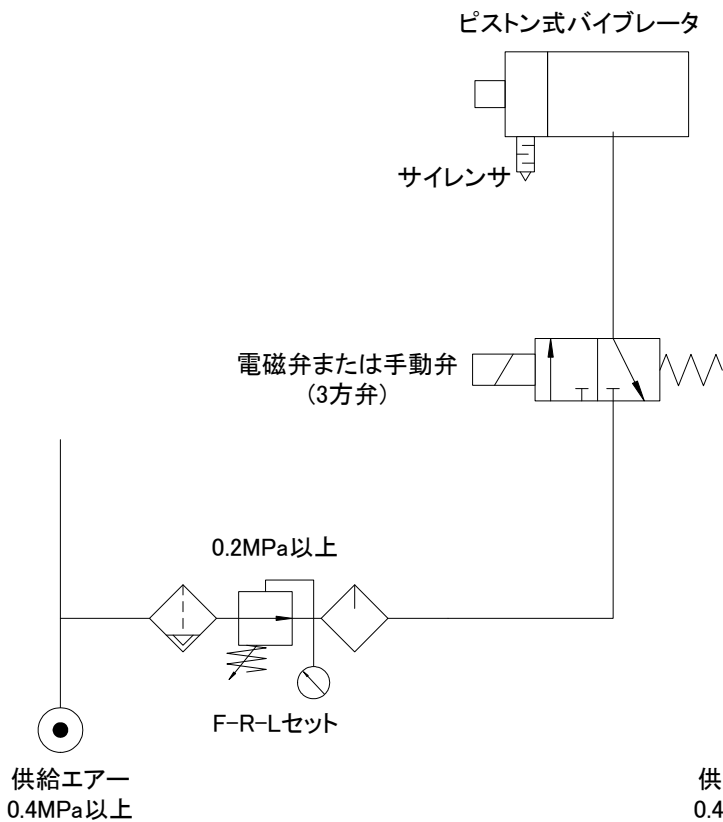
(3) オイルフリーの場合



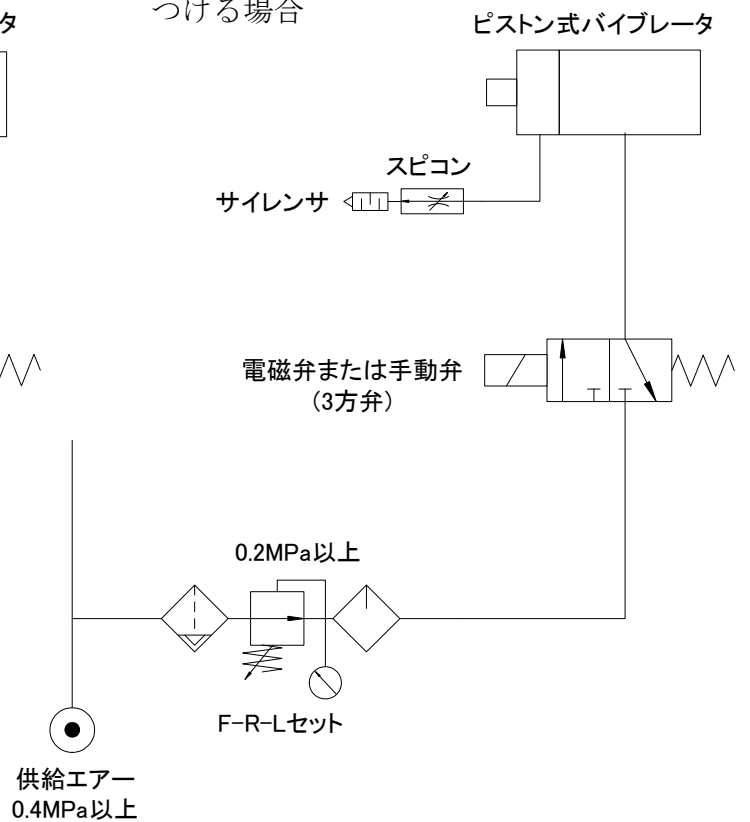
(4) オイルフリーで、調整用スピコンをつける場合



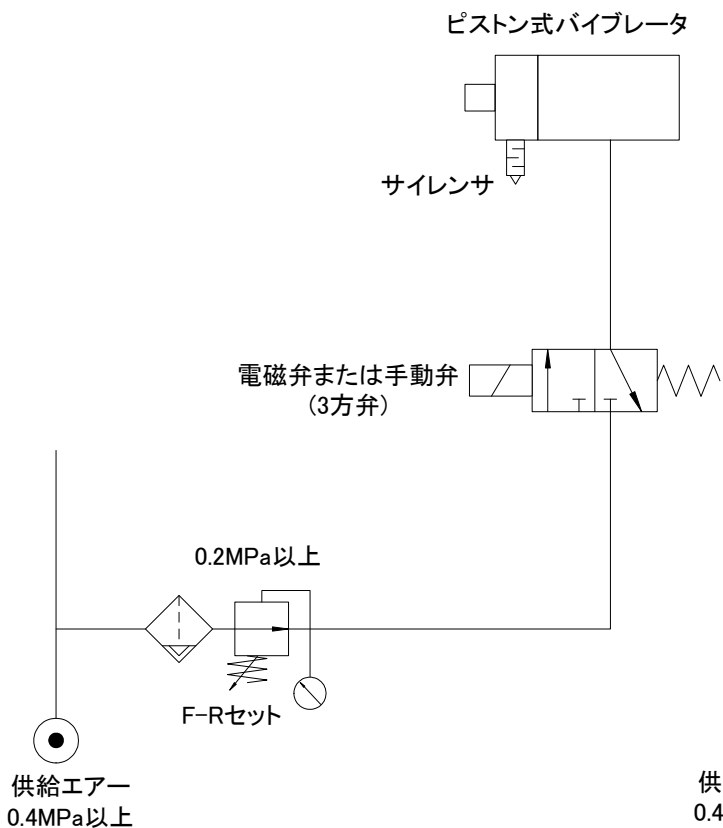
(1) 潤滑オイルを使用する場合



(2) 潤滑オイルを使用し、調整用スピコンをつける場合



(3) オイルフリーの場合



(4) オイルフリーで、調整用スピコンをつける場合

